

【開成中 社会】

昨年度は久しぶりに公民分野の出題割合が増えましたが、今年はそのが大問〔3〕として完全に独立したため、3題構成となりました。総問題数にさほど大きな変化はありませんが、今年は〔2〕の難度が高く、試験時間内に全問解き切ることができない受験生も多かったようです。2013～2015年の3年間は非常に易しい問題が続きましたが、2016年以降は合格者平均点が50点前後に落ち着いており、難度も安定しています。

(年度)	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
合格者平均点	53.5	61.3	61.8	62.0	51.0	48.3	53.8	52.1
受験者平均点	48.7	57.7	58.7	58.6	46.2	42.2	48.6	48.3

〔1〕上野公園やその周辺にちなんだ歴史分野の問題

上野公園やその周辺にまつわる歴史を説明したリード文をもとに、空所補充・適語選択・語句記述・適文選択といったオーソドックスな一問一答形式の出題が30題続きます。開成中の過去問研究をきちんと行った受験生にとってみれば、問8以外はどれも基本レベルの出題で、この大問を「いかにミスなく短時間で解き切れたか」が合否を分ける第一段階だったと言えます。つまり、日々の学習の積み重ねがそのまま点数に結びつく問題です。

〔2〕日本の島々を題材とした地理分野の問題

全国の8つの有人島に関する説明文をもとにした、地理分野の総合問題です。開成中の定番である統計・グラフの読み取りがふんだんに出題され、26問すべて解き終わる頃にはかなりの試験時間を使うこととなります。かなり難度の高い問題もあって全問正解する必要はないのですが、そうした問題を取捨選択できる合理性も勝敗を左右した可能性があります。

ただ、合理性と言っても「ラクをしよう」とか「面倒なことを後回しにしよう」ということを言っているわけではありません。この問題では、8つの有人島の名前をすべて明らかにしなくても解き進めることはできますが、ラスト2題(問19・20)を解くのに結局は各島の位置が分からなければならぬので、横着な解き方をすると最後で泣きを見るようにつくられているというのも、いかにも開成らしいと言えます。

〔3〕裁判所と人権に関する公民分野の問題

裁判員制度が導入されてから10年を迎える中、ICTの進歩が私たちの人権とどう関わっているかを問う内容でした。昨年からは公民分野の出題が増えており、問われている内容はほとんどが基礎レベルですが、今後もこの傾向が続くのかどうか注意が必要です。